

いたやなぎ 町議会だより

平成28年
6月定例会

第10号
2016. 8. 12

主な内容

- 5人が一般質問 P2～6
- 常任委員会審査他 P7
- 視察リポート他 P8～9

まちの宝・子どもたち
～りんご袋かけ体験！～

板柳南小学校体験学習

町民の声を町政に

第2回定例会一般質問

第2回板柳町議会定例会が、6月3日から9日までの日程で開催され、7日に行われた「一般質問」に、5名の議員が登壇しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。

板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、質問と答弁が要約してありますので、臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。

一問一答方式を試行的に導入しました

これまで当町の一般質問は、一括して質問を行い、一括答弁の後、再質問は原則2回ということで実施していました。

そこで、一般質問を町民の皆様により分かりやすく、また、議会での議論の活性化を図るため、6月定例会から、一問一答方式を試行的に導入しました。

当町の一問一答方式では、1回目の質問は従来どおりであり、2回目以降の再質問から、それぞれの質問ごとに質問と答弁を行うこととし、与えられた質問時間（1時間）内であれば、何回でも質問できます。

町民の健康づくり



長内良蔵

問 町民誰もが健康で命の危険を未然に防ぐ仕組みづくりが今後ますます大事になるが、健康づくりについて町長の考えは。

答 (成田町長) 今年度から健康推進課を新設、保健師を増員した。健康増進のための体制を整備し、各事業を展開したい。

主な事業では、昨年11月から実施している板柳町子ども医療費給付事業、新規事業としては、板柳町乳幼児インフルエンザ予防接種助成事業、板柳町特定不妊治療費助成事業、板柳町妊婦歯科健康診査事業、さらに、今年度40歳の方を対象に、一部がん検診を無料化、今後の健康管理と検診の定期受診につなげたい。

また、今年12月に健康宣

言大会の開催を予定している。新規事業、既存の事業を総合的に展開しながら、町民の健康づくりをこれまで以上に推進したい。

問 ひとり暮らしの高齢者が多くなり、なかなか毎日声をかけるといことは難しいが、この対応、町の対策は。

答 (成田町長) 保健師を2名増員したので、自宅を訪問して健康指導する訪問活動を充実させる。また、各地区の行政連絡員、保健衛生協力員に協力をお願いし、健診を受けるように指導していく仕組みづくりを整えたい。

問 平均寿命が、平成22年、男性が77.4歳で県内17位、女性が86.0歳ということと7位と改善されている。さらに平均寿命を延ばすことについて、町



の方針は。

答 (成田町長) 各種検診の受診率を上げ、さらに、生活習慣病対策、自殺防止対策、食生活の改善や運動を習慣づけることなどを進める必要がある。

問 オリンピック出場福士加代子選手の応援態勢

答 (成田町長) 福士加代子選手がリオ五輪でマラソンに出場するが、町の応援態勢は。ホームページで周知し、役場前等に懸垂幕を設置した。今回の補正予算で、現地での応援費用の他、応援旗300本等の予算をお願いしている。

また、競技当日は、夜9時からパブリックビューイングを実施する予定で、町

ぐるみで応援する計画である。町商工会で横断幕を設置、弘前圏域定住自立圏において、弘前市の本庁舎に懸垂幕を設置、さらには青森板柳会、弘前市体育協会から祝金の話をいただいている。

問 国道などに桃太郎旗を設置するなど、町外にむけたアピールの対策は。

(成田町長)

答 国道バイパス沿いに、応援旗を300本設置予定という計画だが、必要に応じて、増やして盛り上げなければならぬ。

町のスポーツ振興

問 町長の基本方針でもある健康増進にその一端を担っているものと考えられる町民のスポーツについて、町の振興策は。

(成田町長)

答 教育委員会で策定している「板柳町の教育」の中で、競技スポーツ、生涯スポーツの振興に努めるということが掲げられ、各競技合わせて39団体を町で支援しているほか、スポーツ推進委員を任命し、スポーツの普

及振興をお願いしている。また、りんごの里まるかじりウォークであるが、町民の健康増進に大きな役割を果たしていることはもちろん、7キロの岩木山眺望コースが新日本歩道道紀行100選に認定されており、町の知名度アップになると期待している。



問 スポーツを通してカップルができた実績がある。スポーツ人口を増やして、カップルを増やして人口を増やすという考えは。

(成田町長)

答 男女の出会いも生まれ、大変よい。気軽にスポーツを楽しめる環境を整備し、スポーツ人口をふやしたい。

問 ふるさとセンターを「県のウォーキングの里」と宣言を行い、全国に発信したいが、町長の考えは。

(成田町長)

答 全国からたくさんの方々がおり、町のイメージアップにつながっているので、ふるさとセンター、ウォーキングの里、こうしたものを結びつけていく方法を検討したい。



三戸 玲子

運転免許自主返納者の移動手段

問 高齢になり、運転免許を返納する人が多くなった。私の住んでいる町内は、中心街から4キロぐらい離れており、通院や買い物が大変である。病院のバスに乗っても受付が遅く、帰りのバスは間に合わない

という人が多くいる。また、町内の施設に入所している人は、医療費よりも交通費が高いと言っている。この状況について町長の考えは。

(成田町長)

答 運転免許返納後の移動手段としては、家族の支援や公共の交通機関などを利用することになるが、自主返納した方にはタクシートの運賃割引など民間企業のみまざまな優遇制度があるのでこうした情報提供に努め、運転をしなくても、安全で安心かつ快適な生活を送れるよう支援したい。

問 この状況から、板病の送迎バスが、さらに細かく止まる必要があるような時代が来たものと考えている。これに関連して、平成27年の3月の予算会議で館岡前町長は、庁内会議で検討を進めていると答えていた。その後コミュニティバスや買い物弱者の対策など、実績は。

(成田町長)

答 病院のバスについては、買い物にも一部利用可能である。コミュニティバス運行に

ついては予算的な問題もあるので、調査研究したい。できるだけ早く庁内会議で、コミュニティバスを考えてほしい。

(成田町長)

答 コミュニティバスについては、私も勉強不足であるが、免許のない方々のために大事である。移動スーパーや農協の食材配達等民間のサービスもあるので、広く考えたい。

ゴミ問題

問 ゴミ処理について、過去の経費はどのように推移してきたのか。また、ごみ袋を使うことによって、私たちはいくら処理費用を負担しているのか。

(成田町長)

答 ごみ処理に係る経費は、委託料等で、平成23年度が1億3,728万円、平成27年度が1億3,035万7,000円となっており、近年減少傾向にある。ごみ袋による町民の負担については、平成27年度、町指定ごみ袋販売収入は1,243万8,000円で、町民1人当たり872

円の負担となっている。これに対する経費は、販売委託料等で691万3,000円となっている。

問 リサイクルは町の資源にもなるので、場所を設けて対応しなければならぬのではないか。

答 (成田町長) 小型家電のリサイクルは役場と公民館とあぶるに回収場所を設置しているほか、弘前地区環境整備事務所による回収事業もある。

瓶や雑誌については、各小学校で、リサイクル製品をストックしておくエコステーションが設けられているので、利用してほしい。

問 弘前大学等と提携し、畑の中でりんご剪定枝を細かくし、圧縮して、薪に加工できるような機械をつくれぬものか。

答 (村上副町長) 工場設立が必要な大がかりなものになる。町ではまき割り機と、粉砕機を用意している。粉砕機を使って畑に還元していくような方向がよいのではないか。



三戸正市

経営体育成支援事業

問 今年度、経営体育成支援事業採択に向けて事業要望を行ったが、県から配分されなかったと聞いている。事業量や採択の状況、町のポイントや配分の基準となったポイントは。

答 (成田町長) 経営体育成支援事業は、国の補助事業であり、近年事業採択ポイントの基準が変更されたことにより、リソゴが基幹作物の当町において、事業採択されにくい厳しい状況となっている。平成28年度の状況は、受益者数は27名、機械の台数が31台、総事業費が7,983万6,360円であり、その補助金が2,394万

1,000円となっている。ポイントは5.07ポイントで、国の採択ポイントは6.25ポイントとなっていて、結果的に予算配分されなかった。この事業は、農業者からの要望が多い事業であるので、活用しやすくなるよう採択ポイントの基準見直しや予算拡充など、国、県等へ要望したい。

問 経営体育成支援事業について、町の基準のポイントがどうすれば伸びるのか、伺いたい。

答 (田沢産業振興課長) 当町で事業を活用するには、規模拡大が最も効果的であるように思う。

「冬の農業」の推進

問 TPPや米価の下落など、稲作農家を取り巻く情勢が厳しさを増す中で、所得を確保するために経営規模拡大も一つの手法であるが、高収益作物の導入による複合経営や6次産業化への取り組みが必要であり、冬の農業も重要な選択肢の一つだと考える。冬場に農作業があるという

ことは、労働者の常時雇用にもつながり、就労機会の拡大や労働力確保につながっていくものと考えている。所得向上や労働力の確保など、メリットのある冬の農業を推進する必要があると思うが、町の考えは。

答 (成田町長) ビニールハウスなどを活用した、冬場の野菜栽培、農産加工の取り組みは、所得の向上や労働力確保に有効な方法である。今後、冬期間の就労促進と農家の収入拡大のため、冬の農業の啓蒙普及を図り、国や県の支援策や講習会などの情報提供を行いながら、当町の農業の活性化につなげていきたい。

圃場整備

問 三千石、石野、野中地区の圃場整備は、昭和30年代に旧三千石堰土地改良区が10アール区画で圃場整備を行っているが、農道が狭く、大型の農業機械が入らねず不便であり、売却または貸したいが、大規模農家などからも敬遠されていると聞いている。

さらに、米の直接支払交

付金が平成30年度産米から廃止となる予定であり、米農家の所得が低下することになる。まずまず作り手がいなくなり、ひいては耕作放棄へとつながっていくことが懸念される。このような状況から、再区画のための圃場整備が必要と考えるが、町の考えは。

答 (成田町長) この地区は農道や用排水路施設が未整備となっていて、生産性の向上や担い手への農地集積を図るためには、農業基盤整備が必要である。土地改良区がないことから、圃場整備事業を導入するには事業の母体となる新たな土地改良区、または圃場整備事務所組合などの組織づくりが必要となる。

事業を導入するには、農家関係者の皆様の100%の同意が必要であり、また農家の負担金が伴うので、新たに作られた組織が主体となつて、地域の合意形成を図ることが重要である。事業導入に向けて地域の関係者の機運が高まってくれ

ば、合意形成に必要な制度の情報提供や関係機関との調整などを支援したい。
また、町が主体となることについては、今後調査研究したい。



成田 肇

街路灯

問 仲町、大町、東雲町、柴町の大通りに設置されているぼんぼり形の街路灯は、電気料金の町から一部補助はあるものの、地

元町内会がその維持管理に当たっている。大町においては、灯具はそのまま、電球を既にLED電球に換え、電気料金の大幅な削減をしているところでもあるが、全般的に各町内会ともに灯具の老朽化が進み、またLED電球に取りかえ対応、灯具改修に踏み切れずにいるのが現状である。歴史的にも昭和30年後半から各町内商店街が元氣だった時代に町内商店会が自前で設置してきた経緯はあるが、地元商店街の衰退が著しい現在において、老朽化で倒壊の危険がある灯具の撤去さえままならない現状に接するとき、このような事案に対応できないか。

答 現在中小企業の補助事業には、地域・まちなか商業活性化支援事業等があり、街路灯設置事例も含まれている。ほかにも合致した事業があるのではないか。民生のさらなる安定と地元商店街活性化に向け、中心大通りの街路灯整備の促進について、町の考えは、
(成田町長)
昨年度末に全町の防犯灯を一齐にLED化したと

ころであるが、その際、中心商店街の皆様から街路灯についてその維持管理に苦慮しているとの声があった。このため町では当該街路灯については一部防犯灯の機能も備えていることから、本年度より電気料金の3割程度を町が負担することにした。そのような支援策も行っているため、その推移を見ながら、今後は老朽化が懸念される街路灯については、商工会や関係団体とも連携し、有利な補助事業がないか調査したい。

問 商工業のためにしている予算は人件費を除くと予算全体の0.56%であるが、1%程度まで引き上げるような考えは。
(成田町長)

答 随時見直しながら予算計上している。国、県の補助事業を活用し、商店街の活性化に取り組みたい。



松森 俊逸

いたや町
消流雪溝

問 いたや町は、生活道の幅員や設置側溝規模などの要件が冬期間の雪処理には不適なところがあり、早くから消流雪溝の整備が望まれていた。町政刷新がなされた今、限りある財源で優先性を見きわめながら掲げた政策を現町長は実行するものと思うが、消流雪溝設置に向け有効な補助事業などを調査研究した上で、少しずつ長期間にわたっていいので、費用便益の観点から本件を進められないか。

答 消流雪溝の整備についての必要性は十分認識している。将来的には整備しなければならぬ課題の一つであるが、現状では財政的な問題も抱えており、今後

研究したい。豪雪時には、いたや町など住宅密集地の除排雪を適宜実施するなど、快適な生活ができるように冬期間の除雪体制の強化を図りたい。

常盤町
JR踏切拡幅

問 常盤町JR踏切拡幅について、3月議会で取り上げたところ、事業化に向け地権者調査や県への要望をする考えを示されたが、県への要望等、具体的な腹案のスケジュール等は。
(成田町長)

答 事業化のためには用地取得など地元の協力体制が不可欠であり、地権者の意向を再調査するよう担当課に指示した。今後は、地権者の意向調査の結果、町内会の意見などを総合的に判断して対応したい。

災害時業務継続
計画(※BCP)

問 5年前の東日本大震災で行政が機能不全に陥ったことを契機に既存防災計画のほかに災害時業務

継続計画、いわゆる自治体版BCPを策定する自治体がふえている。先般の熊本地震のときも庁舎が使用不能になった自治体が、震災翌日から最小限だが行政サービスを始めたと報道された。当町ではそのような事態に対応する体制がとられているか、また、通称BCPが策定されているか。

答

(成田町長)

町における地域防災は、板柳町地域防災計画を定めて対応しているが、災害時業務継続計画に関しては策定していない。しかし、近年想像を超える大規模な災害が発生しており、現在ある計画についても見直しが必要であり、この中において災害時業務継続計画もあわせて整備したい。

県立高校統廃合

問 県教委は先月県立高校教育改革推進基本方針案を公表し、いまだ本基本方針は案であるが平成29年度中にはこの案を最終決定し、平成30年度以降に運用するとしている。前回の高校統廃合時には待ったな

し状況で統廃合がなされたことを考えると、地元自治体との協議が始まる時点では、時既に遅いという感が前回の事例では否めない。板柳高校への進学や同校出身者が多数いる当町においては、存続に向け情報収集も含め危機感を持って早めの対応をすべきでは。

答

(成田町長)

これまで県教育委員会の関係者と2度にわたり意見交換し、地域のバランスや生徒の通学環境などを考えると、非常に必要性を有する学校であるため存続してほしいと伝えている。

将来を担う子供たちのために地元高校は絶対に必要であり、なくなると人口減少が加速、まちづくりにも大きく影響するため、地元の見方や地域の実情をよく考えて、高校再編には慎重に対応してほしいと強く要望している。

問 板柳町立小学校適正規模・適正配置等に関する報告書が平成26年3月に同検討委員会で作成され、議会報告されたと聞いたが、本報告書に記載されている小学校1校統合及び小中一貫教育は当町の教育の方針として確立されているのか。

答

(成田町長)

町教育委員会では、平成26年8月に板柳町立小学校の統合構想を策定し、同年9月議会において議員全員協議会で説明している。統合構想の内容であるが、板柳中学校の耐震化も含めて、板柳中学校の敷地内に施設一体型の小学校を建設し、小中一貫教育を目指したいという内容で、これを基本に、財政状況を踏まえながら、よりよい教育環境の整備に努めたい。

問 3月議会では、中学校の校舎の基本設計を秋口までに行うという答弁があったが、小中一貫教育を将来目指すための建設であるという認識でよいのか。

答

(木村教育長)

小中一貫教育と伝えているとおりである。今町長が答弁したとおりで、教育

委員会ではそれを尊重する形で計画を進めている。

問 小学校は1校統合し、そして小中一貫教育を目指すということをお目指すということをお目指すことに関係者、地域住民、PTAにアピールして、コセンサスを醸成していくべきでは。

答

(木村教育長)

小中一貫教育にはいろいろな方法があるので、時間をかけ、確かめてからではないと出せないところがあり、まだ時間がかかるといふことで了解をお願いしたい。

板柳中学校体育館

問 平成23年度改築の中学校体育館床フローリングに凹凸不具合が生じ、施工業者からは原因報告はこれからであること、業者が無償で全面張りかえをすることが決まったことについて、町長の考えは。

答 (成田町長) 教育委員会とも情報を共有し、原因を精査し、今後の対応を早期に考えたい。体育館床の一部張りかえ補修がなされたとき、

どのような報告を受けたのか。

答 (阿部学務課長) その時点では、今後おさまるだろうという話であった。

問 そのときの補修費用はどのくらいだったのか。

答 (阿部学務課長) 費用については、業者の全額負担である。

問 一部不具合が見つかった時点では全体的な不具合はなかったのか。

答 (阿部学務課長) 冬場に入り、徐々にその現象が出てきた。

問 施工業者に対する責任をどう考えているか。

答 (成田町長) 正式な報告書を見て適切に対処していくということとしか現段階では言えない。

問 当時退職していた現副町長が施工指導のために建設課に籍を置いて対応したが、どう考えるか。

答 (村上副町長) 小阿弥小学校と板柳中学校の設計内容はほぼ同じで、片方がしっかりできて、片方がこのような事態になったことは、非常に残念である。

任 査 委 員 会 常 任 委 員 会 審 査

総務産業厚生 常任委員会

■富士加代子選手応援
における町長の渡航日
程等

○ 富士加代子選手応援のためブラジルへ向かう町長の日程は。

○ 現地に3泊、帰りの飛行機の都合で日本に1泊と4泊8日というような日程である。ホテルに泊まるのが4泊と、そのほかは乗り継ぎ等にかかるものであり、かなりハードな日程である。

○ ブラジル国内での、町長の身の安全管理は。

○ 町長単独でということとは非常に難しいということから、今回富士選手所属のワコールで組んだツアーに同行させてもらい、ワコールの方々と一緒に現地入りして応援する。

■板柳中央病院におけるリハビリ

○ 軽い脳梗塞の場合は板柳中央病院でリハビリできるのか。

○ 具体的には最大で62日、約2ヶ月の入院のみの条件付きの患者を対象に、機能訓練を行っている。今年度から作業療法士が新採用で入り、2名でリハビリを行っている。

○ 町外の病院で脳梗塞の治療等を受け、その後のリハビリということでも、板病でもできるのか。

○ リハビリを整形や外科とあわせて治療したい内容の紹介状が必要になる。また、入院中の病状の状態を記録した診療録も必要である。

■板柳中央病院患者送迎バスの運行状況

○ 板柳中央病院の患者送迎バスは町内だけの運行か。

○ 町外であれば、弘前市の十面沢まで、週1回運行している。

○ 鶴田町からの患者も増えているが、そちらまでは運行していないのか。

○ 現状の行程よりも範囲

を広げるには、バスが2台なければ出来ない状況である。

◆陳情
「所得税法第56条廃止を求める意見書」の国への提出を求める陳情 採 択

福祉建設文教 常任委員会

■名誉町民表彰

○ 中学生派米研修で30年弱ご尽力いただいている木立随学先生を名誉町民として表彰することを検討してほしいが、名誉町民として表彰する制度はあるのか。

○ 過去に数名、表彰した実績はある。

■小学校施設整備

○ 東小学校のグラウンドの土が周りのリンゴ畑に飛んで、交配がしづらくなっているようである。防じん剤をまくなど対策しては。

○ 早急に検討したい。

○ 南小学校とりんご畑の境にある防風網の破損に対する対策は。

○ まずは、破損している

部分については撤去した。ネットの張り替えは来年の予算で対応になると思うが、早い時期に張り替えたい。

■郷土資料館

○ 郷土資料館の入りにくい。ある看板が目立たないので何か対策は。

○ 現地を調査し、看板の補修も含めて、見やすくしたい。

○ 郷土資料館が閉館になるという話もあるが本当か。

○ 冬期間休業したことと混同されたのではないか。



◆陳情
軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、その危険性や予後の相談の出来る窓口などの設置を求める陳情 継続審査

議 会 を 傍 聴 し ま せ ん か

次の定例会は9月です

<議会日程のお知らせ(予定)> ※開催時間はいずれも午前10時です。

月 日	内 容
9月1日(木)	本会議 委員会報告、提案理由の説明・報告、監査報告、決算特別委員会の設置 一般質問
9月5日(月)	本会議
9月6日(火)	常任委員会 総務産業厚生・福祉建設文教
9月7日(水)	特別委員会 決算特別委員会
9月8日(木)	特別委員会 決算特別委員会
9月9日(金)	本会議 委員長報告、質疑・討論・採決

傍聴者名簿に住所、氏名、年齢を記入していただければ、どなたでも本会議を傍聴することができます。なお、傍聴できる人数は51人となっております。

視察・研修レポート

福祉建設文教常任委員会視察

管内小中学校・保育所訪問

5月24日板柳管内小中学校を視察訪問しました。

初めに、各学校とも校長先生より学校経営方針の説明、教頭先生より学校の現状、重点課題、目標等の説明を受け、校内一巡するとともに、子ども達の授業の様子並びに建物状況を視察してきました。

まず、小中学生の総数ですが、5月24日現在、小学生628名、中学生345名、合わせて973名となっており、町の少子化がうかがえる現状となっております。中学校においては、平成32年には生徒総数300名を割るという状況です。

各学校とも、経営方針や教育目標にむけて教職員一丸となり、子どもたちの学力向上、体力作りや集団活動など取り組んでいるとともに、各々改善すべき課題を把握し、それに

向けての対策なども検討されていきました。心から敬意を表します。

また、建物等については東小学校を除き老朽化や経年劣化による修繕の必要がある箇所が目立ちまわっているなかではありますが、修繕内容を適切に検討し、取り組んでいくべきだと思えます。

まちの宝でもある子どもたちが通う学校における環境整備については、当委員会としても町、議会一丸となり取り組む課題であると、再認識した視察訪問でありました。

また、6月27日には、4月から認定こども園としてスタートをした板柳第一及び第三保育所鶴住を訪問し、これまでとの違いや現状等の説明を受け、視察をしてきました。

(委員長 今 浩一)



全国町村議会

議長・副議長研修会

5月30日、31日の2日間にわたり、東京中野サンプラザにて全国町村議会議長会主催の議長・副議長研修会が開催され議長と、私、副議長が出席しました。

町村議会特別表彰を受けた神奈川県大磯町議会、長野県飯綱町議会の事例発表や、地域経済の活性化、今後の政治・政局についての講演が主な内容でした。

この研修会を受け、地方創生の成否の鍵はいかにして町民とともに議論を深めるかにかかっており、これまで以上に町民に開かれた議会になるかが重要であること、議員同士の自由な議論を大切にし、当町議会にあった議会改革の進展が重要だと感じました。

(副議長 長内 良蔵)

県下町村議会

議員研修会

7月14日、青森市民ホールにおいて、テレビ朝日コメンテーター川村晃司氏を講師に「これからの政局・政治動向」と題し、選挙権年齢を「18歳以上」に引き下げた参議院通常選挙の結果や政治家のリーダーシップに関する講演が行われました。

(議員 久米田 亥佐雄)

7月14日から2泊3日の日程で、委員6名、事務局職員1名で、視察研修を行いました。

初日は、新幹線で函館近郊の七飯町に向かい、りんごワーク製品クールアップルを製造している(株)小原の工場を、社長の案内で見学しました。

明治初期の創業という長い歴史のある会社で、女性従業員が多数を占め、きれいに掃除も行き届いていました。作業の効率を良くし、正確性を保つために、担当業務を短時間で交替しながら行っているのが印象的でした。

地元ドラッグストアで人気だという、炭酸水の瓶詰め作業をしており、空のペットボトルから出荷するケースに入るまでの流れを見学しました。

2日目は、JR札沼線

で、札幌市の隣町、当別町を視察しました。人口規模は当町と近い町ですが、大学がある

ほか、チョコレートが人気の「ロイズ」の工場があり、数百人が勤務しています。

駅近くの町役場にて、「コミュニティバスの運行状況」、「地域ブランド推進」、「道の駅整備」、について説明を受けました。

コミュニティバスは大学や企業と連携して運行しているとのことでした。

道の駅は、来年秋にオープン予定で、各種補助金を活用しながら、着実に整備が進んでいる様子がよくわかりました。

説明する職員は、どの方も自信を持って堂々とした態度で説明しており、町に誇りを持って、それぞれの業

務を行っていると感じました。

その後、札幌市内の百貨店でりんごワーク商品の中元販売状況を視察しました。一流のデパートの中で輝く商品が、愛おしく感じられました。時代のニーズに合わせた新商品を作り、さらに飛躍して欲しいものです。

3日目は小樽市に移動、古い倉庫を活用し、商業、観光業を頑張っている小樽市民から、先人が遺したものを宝としてまちづくりに活かすことのすばらしさを再認識しました。

(委員長 三戸 玲子)



左が小原光一社長、熱意あふれる説明で1時間があっという間でした

議会の動き (4月～6月)

開催日	会議等名	開催日	会議等名
4月	11日 議会だより編集特別委員会	6月	3日 本会議(定例会日程、町長の提案理由等)
	12日 板柳町都市計画審議会		議員全員協議会
	13日 町例月出納検査(監査) 北島議員		(一般質問一問一答方式試行確認)
	14日 議会運営委員会(5,6月会議日程等)		7日 本会議(一般質問・5人)
	19日 議会だより編集特別委員会		議会運営委員会(定例会追加案件)
	24日 議会だより編集特別委員会		8日 議員全員協議会(定例会追加案件)
	28日 国民健康保険運営協議会		総務産業厚生常任委員会
5月	2日 議会だより編集特別委員会	(所管事務調査)	
	11日 町例月出納検査(監査) 北島議員	福祉建設文教常任委員会	
	18日 西北津軽郡町議会議長会総会 葛西議長	(所管事務調査)	
	24日 福祉建設文教常任委員会協議会	9日 議員全員協議会(町諸案件等)	
	(管内小中学校訪問)	本会議(委員長報告、採決、閉会)	
	27日 議会運営委員会(定例会案件)	10日 町例月出納検査(監査) 北島議員	
	監査委員現地視察(町有財産等) 北島議員	17日 青森県町村議会議長会臨時総会 葛西議長	
30日 全国町村議会議長会・議長副議長研修会	27日 福祉建設文教常任委員会協議会		
31日 葛西議長、長内副議長		(保育所訪問)	

編集後記

日本中、オリンピックで盛り上がっている夏。

りんご灯まつりも終わり、北国の短い夏の終わりを感ずる季節となりつつありますが、板柳町はまだまだ「熱い夏」が続きます。

地球の反対で、日の丸を背負って頑張るわが町出身、福土加代子選手。

町民みんなで応援しましょう。

ブラジルリオまで届け、
町民の声援。

がんばれ加代子。夢・希望をその手に。

(副委員長 今 浩一)

【発行責任者】

議長 葛西清人

※第11号発行予定は11月11日頃です。

議会だよりへのご意見・ご感想をお聞かせください。

一目で分かる審議結果

◆第2回定例会

議 案	結 果
専決処分の承認について (板柳町承認企業立地計画に従って設置される施設にかかる固定資産税の特別措置に関する条例の一部改正)	全員同意
専決処分の承認について (板柳町税条例等の一部改正)	全員同意
専決処分の承認について (板柳町国民健康保険税条例の一部改正)	全員同意
専決処分の承認について (平成27年度板柳町一般会計補正予算)	全員同意
板柳町ふるさとセンター施設使用条例の一部改正について	全員可決
平成28年度板柳町一般会計補正予算について	全員可決
平成28年度国民健康保険板柳中央病院事業会計補正予算について	全員可決
【報告】平成27年度板柳町一般会計繰越明許費繰越計算書について	
所得税法第56条の廃止を求める意見書について	全員可決
板柳町除雪ロータリ購入契約について	全員可決